資料３－１

認知症専門医等へのヒアリング結果

認知症専門医等へのヒアリング結果等報告

（1）目的

認知症の疑いのある高齢者等による逆走が見られることから、より幅広い方に有効な対策となるよう改善すること等を目的に、認知症等の知見を有す専門医・機関へヒアリングを実施。

（2）ヒアリング先

①敦賀温泉病院（認知症疾患医療センター指定） 院長　玉井 顯 医師

- 認知症の予防・早期発見・診断及び鑑別診断、リハビリテーション、治療に取組む。日本老年精神医学会、日本認知症学会の評議員、「認知症になっても安心して暮らせる街づくり100人会議」の専門協力員、認知症のステップアップ講座の専門講師など、数多くの学会や社会活動に従事。

②NPO法人　高齢者安全運転支援研究会

- 高齢者の「運転能力」を判断出来るシステムの構築、高齢運転者のデータ収集と専門家による分析、認知機能検査支援システムの検討・提案等を実施。

（3）ヒアリング内容

高齢者や認知症・軽度認知障害の方の「認知機能」・「情報に対する理解」・「状況の判断」に関する特性や高齢者等に有効な対策に関する意見等を聴取。

高齢者や認知症・軽度認知障害の方に関する特性等

〇高齢者や認知症・軽度認知障害の方を考慮した逆走対策を検討するにあたり、参考となる知見は次のとおり【P3、P4のまとめ】。

■認知に関する特性

①認知症等の方は、視野に関しては、**下を向く傾向**にある。

②認知症等の方は、記憶や理解が低下している恐れがあるため、**繰り返し伝える**ことが有効。

③**高齢になると注意力が散漫と**なりやすく、状況把握が十分なされない傾向がある。

④高齢者等に対して警告を与える刺激として**音が有効**である。

⑤認知症等の方は、**夜間に明るい方向へ移動しやすい傾向**にある。

■理解に関する特性

⑥標識等を複数設置するなど**情報を繰り返し出す**ことが良い。

⑦見慣れていないサインは理解しにくく、**従来からのサインや漢字の方が理解しやすい**。

⑧**禁止する行為などを伝えるには具体的な内容を明示**する方が良い。

■判断等に関する特性

⑨パニックに陥ると判断する能力がおちる。

⑩認知症の方は、夜間においては運転能力が低下する可能性がある。

【参考】 敦賀温泉病院院長へのヒアリング結果

1）認知に関する特性

①認知症の方は、歩行中に受ける情報量が多くなると、視線を正面から下向きなどにそらす傾向がある。車を運転する際は、下を向くなど視線を回避することはできないので、運転中の場合は注意障害や混乱が生じ同時処理能力が低下する傾向がある。

②高齢者等に対して、音は警告を与える刺激として重要であり、危険を察知させるために音を用いるとよい。

③振動による警告は、事前に十分周知しておかないと逆に驚いて予想外の動きをしてしまう可能性がある。

2）情報の理解に関する特性

④高齢者等は、運転中の走行速度が遅い方が判断はしやすく、また情報は記憶障害があるため繰り返し出した方が良い。

⑤高齢者や認知症の方は、見慣れていない新しいサインを理解・学習するのが困難である。

⑥認知症などにより、意味記憶がなくなるとサイン（ピクト）の意味が分からなくなる。このような場合、漢字が有効な場合がある。

⑦漢字は、象形文字としてとらえるため、認知症の方にとっても分かり易い。また、漢字にサイン（ピクト）を組み合わせるとより有効であろう。

⑧看板や路面表示に記載する内容は、具体的な行動指示が有効である。

3）判断等に関する特性

⑨高齢者、軽度認知障害・認知症の方は、あわてるとアクセル、ブレーキを間違えることがある。脳の判断機能が低下している場合や失行症によりペダルの微細な操作ができなくなっている場合がある。

⑩ふたつのことを同時に処理する能力は落ちる。（前頭葉機能の低下、同時処理障害）

⑪一度、ﾊﾟﾆｯｸに陥ると焦り、判断する能力が落ちる。ｱﾙﾂﾊｲﾏｰの方は、混乱しやすく、ﾊﾟﾆｯｸに陥りやすい。

⑫同乗者の声かけやラジオ、音楽は注意機能を低下させ運転能力が低下する。また、認知症の方は、夜間においては運転能力が低下する可能性がある。

【参考】 NPO法人 高齢者安全運転支援研究会へのヒアリング結果

1）認知機能低下に関する特性

①認知症の方は、肉体的にも、精神的にも視野狭窄になりやすく、特に上方の視野が狭い傾向にある。

②高齢者になると、注意力が散漫となり、見たつもりになる傾向にあるため、物理的な対策でなければ、気づかないケースが多い。

③軽度認知障害・認知症の方は、精神的視野狭窄によって、認識・理解できる範囲が狭くなる恐れがあり、看板等を見落とす可能性が高い。

④軽度認知障害・認知症の方は、夜間は、より明るい方向や場所へ移動しやすい傾向にある。

2）情報の理解に関する特性

⑤認知症の方は、若いころの記憶はあるため、昔からある信号機や標識などのアナログな対策のほうが効果的と考えられる。

⑥認知症の方は、精神的視野狭窄になりやすいため、標識等を連続して複数設置することが有効と考えられる。

⑦認知症の方の特徴として、新しいことが覚えられず、若いころの記憶しかないことが多く、逆走防止のための教育には留意が必要である。

⑧禁止する行為を具体的に伝えることが重要である（順走方向のみ示す場合、Uターンして逆走しても良いと、自分に都合良く解釈する恐れがある）。

⑨漢字は書けなくなるが、文字の意味は理解できる人のほうが多い。

3）判断に関する特性

⑩移動時に間違うとパニックとなり、次の行動に移せない状態となる（危険を回避することができない）。